

報告ダイジェスト

- ・ネパール PCBR ルーニバ氏 研修報告① (報告1)
- ・玉井所長のイタリア訪問記～その②～ (報告2)
- ・キャリアコンサルティングを実施しました (報告3)

報告1 ネパール PCBR ルーニバ氏 研修報告① ～日本における障がいのある人の就労機会の探求～

昨年、ぱれっとインターナショナル・ジャパン(以下PIJ)の事業として、ネパールのパタン CBR(以下PCBR)のクッキープロジェクトへの支援が本格的にスタートしました。今年1月に研修に来日した現地トップのルーニバ氏から報告をしてもらいます。

●ネパールでのクッキーづくりの取り組み

PCBRはNGOとして24年間ネパールで障がい児者の領域で地域福祉の掘り起こしやリハビリテーションといった活動を展開し、福祉教育・理学療法・学校教育プログラムを続けてきています。これまでに、ネパールの障がいのある児童に対し2300人以上にサービス提供してきています。現在、重度重複障がいのある子を持つ親と知的に障がいのある若者の雇用を拡大する目的でこのプロジェクトがスタートしました。重度の子を持つ親は、中々働く機会に恵まれていません。

昨年1月8日から1週間、私は知的に障がいのある人たちの雇用状況を知るために日本を訪れました。ネパールの障がいのある人たちがクッキーづくりによって雇用が創出され、それが実践されるよう、学ぶ機会が与えられました。

2020年、PIJの代表であった谷口さんがネパールを訪れ、ぱれっとの通所員が作ったクッキーを頂いたことで心に衝撃が走り、今の

自分につながっています。そのクッキーはとても美味しく歯ごたえがありました。カトマンズで売られている大抵のクッキーはやわらかく粉っぽくてくずれてしまいます。ぱれっとのクッキーを食べてみて、同じタイプのクッキーを作りPCBRのメンバーの雇用につなげ、収入の糧が得られると確信しました。

このプロジェクトは、2023年6月28日からの1週間、谷口さんや相馬さん、ぱれっと会員の栗原さんがネパールを訪れ、PCBRのメンバーや親たちにクッキーづくりをレクチャーしてくれたことで実現しました。

最初の段階で、PCBRのクッキーチームがレシピや使用材料、衛生面での指導や原価計算など、基本的な事柄が知識として得られたことは本当に幸運でした。その訪問から6ヶ月後の今回、私はさらに日本においてクッキープロジェクトで成功を収めているぱれっとでの研修の機会が得られ、ネパールでもそれを引き続き実行するノウハウを学びました。

1週間の滞在期間中、ぱれっとの利用者といっしょにクッキーづくりができたことは非常に良い経験で、ネパールで同じくクッキーづくりを行なう上で広い視野が持てました。更に、オンラインミーティングで現地の通所員やスタッフ・親どうしが両国間で現場の仕事共有しながら交流できたことは、障がいある彼等にとっても、外国人の仲間ができた



【ぱれっとでクッキーしぼり（左側）】

ことでとても興奮した顔が見られました。

●渋谷区内就労支援事業所見学

認定特定非営利活動法人ホープワールドワイド・ジャパン「ホープ就労支援センター渋谷」と、認定特定非営利活動法人よりどりみどり「みどり工房」のレストランを見学しました。ネパールではできない、知的に障がいのある人だけではなく、発達障がいのある人も製造に携わる仕事があることに驚かされました。そうした雇用の創出や彼等の待遇には素晴らしいものがありました。一般の方が彼らの作った製品を日常的に購入している姿が見られたことは幸いです。

●「ぱれっと親の会」との交流

「ぱれっと親の会」での交流の時間は大変有意義なもので、私のネパールでの経験を共有できたことと、ぱれっとの親が抱える課題を知ることができました。

親が抱える最も懸念すべきことは、息子や娘の親亡き後を心配することで、ネパールの親と共通したものでした。親たちは自分たちの子どもが親亡き後も生きる権利を有することを政府に訴えかけていく必要があると私は考えます。

●鎌倉探訪

谷口さんのご自宅がある鎌倉を訪れました。鎌倉には特定非営利活動法人「道」が運

営する、アートを仕事とした就労継続支援B型の作業所、道工房がありました。道工房は、精神に障がいのある利用者を対象とした作業所でした。彼等は毎日絵画を制作し、市場で販売されているところが素晴らしいです。このような就労プログラムがネパールで実現されれば、多くの知的・精神に障がいのある人たちが仕事に就き、経済的に自立を目指すことができるでしょう。

●クッキープロジェクトの将来

全体的に、今回の日本の訪問は、障がいのある人たちの色々な働く場面に触れることで、私の見分を広める良い機会となりました。これらのアイデアはネパールでも実現できると確信しています。

ぱれっとがこのような機会を提供してくださったことに感謝するとともに、我々の組織とぱれっととの交流が続いていくことを願っています。ありがとうございました。

（PCBR 代表 ルーニバ・チットラカーラ）



●今回の研修にあたり

PCBR のクッキープロジェクトは順調に進んでいます。製造スキルも向上し実際に販売しており、味にも定評があります。現地の材料を使い製造していますが、目下の課題は製造原価を下げることです。次号つうしんでは、スタッフミーティングで掘り下げた「障がいとは何か」や人材育成、行政や企業を巻き込んだ地域とのつながりなど、将来的な事業運営について、ルーニバ氏の考えをお伝えします。

（PIJ 代表 相馬宏昭）

報告2 玉井所長の イタリア訪問記②～地区の家～

昨年11月視察に訪れたイタリアの活動の中から、今回は地域住民が主体のユニークな取り組みを紹介します。

●「地区の家」とは

行政が設置するのではなく、住民により発案、設置、運営されている公共空間（本来の意味でのパブリックスペース＝「みんなの場所」）です。地区の家はトリノ中央駅から程近いサンサルバリオ地区で元々公衆浴場だった場所を改装し2010年に生まれました。中庭では放課後の小中学生がバスケットボールをして遊び、室内では合奏やダンス、言語等の講座が開かれ、カフェバーではお年寄りがカードゲームを楽しむ風景が見られました。それぞれの活動が閉鎖的な室内で独立・完結するのではなく、テラスや通路を通して緩やかにつながり、声がかままして独特の一体的な雰囲気を感じられました。

地区の家自体はこの10年程でイタリア各地に急速に広がりますが、特に決められた様式はなく、運営主体も別々で（※）、大まかに言うと「地域のコミュニティをつなぐ」ための「屋根のある自由な公園」といったイメージです。日本で言うと公民館や文化センターと似ていますが、行政が建物を作り管理する方法とは真逆の起点なのが特徴です。

●地区の家が生まれた背景

トリノは工業地域であり、元々第二次世界大戦後からイタリア南部や世界の様々な地域から労働人口の流入がありました。特に近年は安全と就労機会を求めてアフリカからの移民（難民も）が増え、多様な民族や宗教が混在する街になっています。特にこのサンサルバリオ地区は交通の便が良いため移民が集中し、元々暮らしていた住民との間に摩擦が生じ暴力事件が起こるなど90年代に悪い風評が広がるようになってい

ました。そこで当時大学院で建築学を専攻しておりNGOでアフリカでの居住支援の経験もあったアンドレア・ボッコ氏（現・トリノ工科大学教授）がトリノ市より調査を依頼され、移民の定着、移民との共生のため地域住民たちと対話をはじめました。その結果元々あった市民団体たちが協力してこの地区を良くしていこうと気持ちが一つとなり、その拠点として地区の家構想が生まれました。そこから民間のファンドより助

【地区の家事務所でスタッフと談笑するボッコ氏】



成金を得て実質オープンするまでには長い年月がかかりましたが、トップダウンではなくボトムアップで地区再生をはかる「自治」「責任

という重要な土台はこうして作られ、現在にも続いています。今では活気ある魅力的な地区として人気を集め、そのため家賃が上がって低所得者層が逆に暮らし続けることが難しくなるという問題も出てきています。

※運営主体「コーポラティーバ」とは

「社会的協同組合」と呼ばれます。企業体（営利）ですが社長や役員がいるわけではなく、一人ひとりが水平な関係でそれぞれに決定権を持ち社会的事業を行なう組織です。今回視察で訪れた3つの地区の家はこの形態で運営されており、元々の友人同士で志を共にする人たちが集まり、公私の境なく地域の課題解決のため仕事をしているのが特徴でした。

次回はボッコ氏らのコーポラティーバ「スミズーラ」（オーダーメイドの意）が、その後2014年に手掛けたもう一つの地区の家（ヴィア・バルテア）を紹介します。（おかし屋ぱれっと・工房ぱれっと

所長 玉井七恵）

報告③ キャリアコンサルティングを実施しました。

先日、人材育成の一環として約半年間準備を進めてきた全職員対象の「キャリアコンサルティング」(略称キャリアコン)を実施しました。企画にあたり、ぱれっと理事の藤井さん、そして専門機関である「キャリア形成・学び直し支援センター」の皆様にご協力いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

●キャリアコンとは

キャリアコンとは、各個人が現職だけに留まらず今までの歴史を振り返り、自身の人生を通してこれからどのように自分の経験や知識を重ねていくかを明らかにし、目指してきたもの、これから目指すことを整理する作業をサポートするものです。今回は、10名の職員を対象とし、「ライフラインチャート(※1)」「ジョブカード(※2)」の2種類の指標を作成するワークショップと、それに基づく専門家による個別面談で構成しました。

●職員の感想

はじめに講師の方から説明をして頂きながらジョブカードを作成しました。今までの人生での出来事や職歴等をグラフにして良い時悪かった時などを線で結んでいきました。自分に起きた出来事が頭にはあってもグラフにして見る事はなかったので、改めて今までを再認識できました。また自分の性格がどの様な性質なのかも確認しました。社交的、責任感が強いなど性格の適正を皆さんも改めて再認識したかと思います。全体での合同キャリアコンの次は個別面談を受けさせて頂きました。今後の方向性を相談しつつ今職場で抱えている悩みなど様々な話を聞いてもらい、客観的な意見を頂き

ました。そして思ったのが今のホームの人員不足について、上司に人を探してもらうのをただ待っているだけではなく、自分からも人員不足解消の為、確保に動く必要があると感じました。自分の頭だけで考えているだけではなく、客観的な意見を頂く事で少し気持ちが楽になりました。有意義な時間だったのでまたキャリアコンを受けたいと思いました。

(えびす・ぱれっとホーム 佐藤裕)

今回、キャリアコンでは、履歴書のような堅い内容で自分の過去の振り返りから、印象に残っていることやその時にどう感じたかなどまで、事細かに自分のこれまでを振り返るところから始まりました。そして、今の状況や、心理分析のアンケートをしたり、これからの展望を考えて記入したりもしました。そして、キャリアコンをしてくれる方に事前に記入していたシートを見せながら口頭でも説明していきます。過去の出来事、今の状況やこれからのについて自分で説明することで、この先のことをとてもイメージしやすくなりました。

また、話をしていく中でどんなことにどんなことを感じるのかについて講師の方から客観的にフィードバックをしてもらえるので、自分の新たな一面を知ることが出来、気付いていなかった長所を発見することが出来ました。今後も5年や10年毎に振り返り、定期的に人生のプランを見直していきたいと感じました。

(おかし屋ぱれっと 井上ムハンマド)

※キャリア形成・学び直し支援センター

<https://carigaku.mhlw.go.jp/>

(事務局長 南山達郎)

※1.自分の人生を遡って起きた出来事や体験を書き出し、人生の浮き沈みを曲線で示したもの

※2.個人のキャリアアップや多様な人材の円滑な就職等を促進することを目的とした「生涯を通じたキャリア・プランニング」および「職業能力証明」ツール